

II 住まいの満足度

～住まいの満足度について～(問8～11)

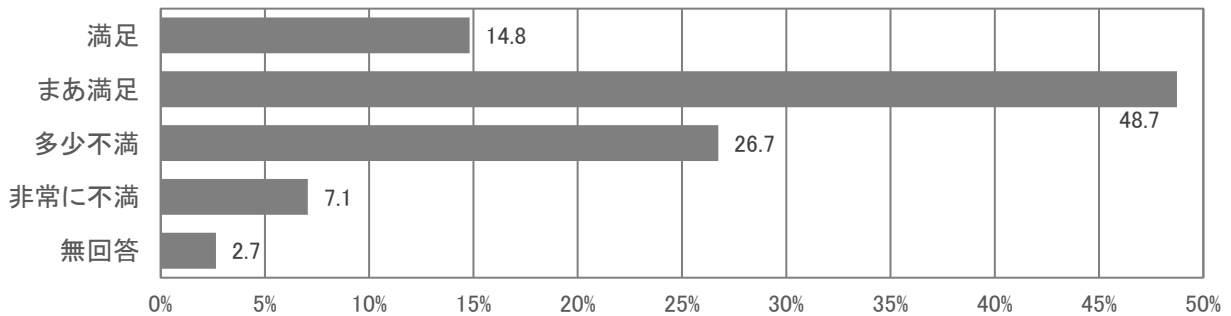
住まいに満足していると回答したのは6割以上となっている。不満や不安な点は、「断熱性(夏の暑さ、冬の寒さ)」や「地震時の安全性」など住宅の性能に対して不満や不安を感じている傾向がみられた。

住宅のまわりの環境は、7割以上が満足と回答している。不満や不安な点は、「日常の買い物などの利便」が29.0%と最も高かった。

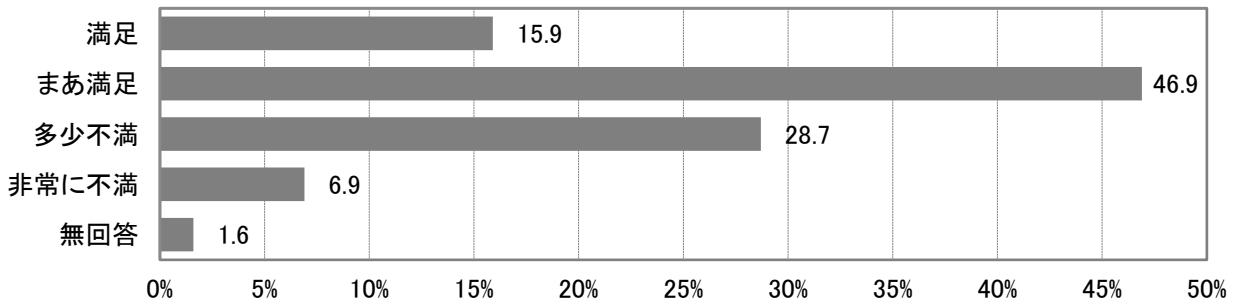
問8、住宅に対する満足度について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

住宅に対する満足度は、62.8%が「満足」又は「まあ満足」と回答しており、平成30年度と比較すると、ほぼ同じ傾向がみられた。住宅築年数別でみると、平成24年以降に建築された住宅においては、約8割の住宅において満足度が高くなっている一方、昭和55年以前に建築された住宅では、半数が住宅に対し不満を持つ傾向がみられた。

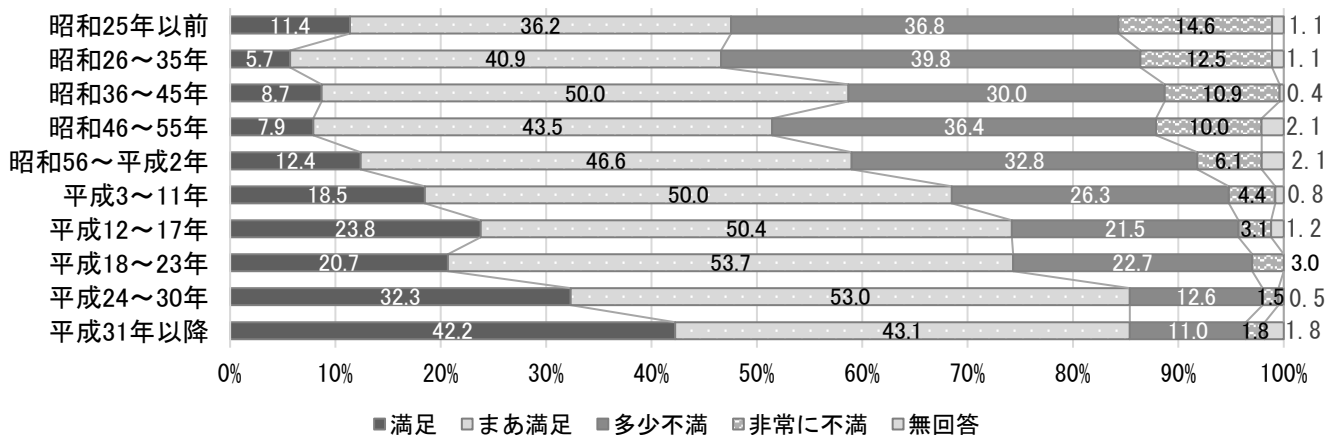
問8 平成30年度 住宅に対する満足度(1つ○) (N=4,110)



令和5年度 住宅に対する満足度(1つ○) (N = 2,989)



住宅築年数別



問9、住宅のどの点が不満又は不安ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

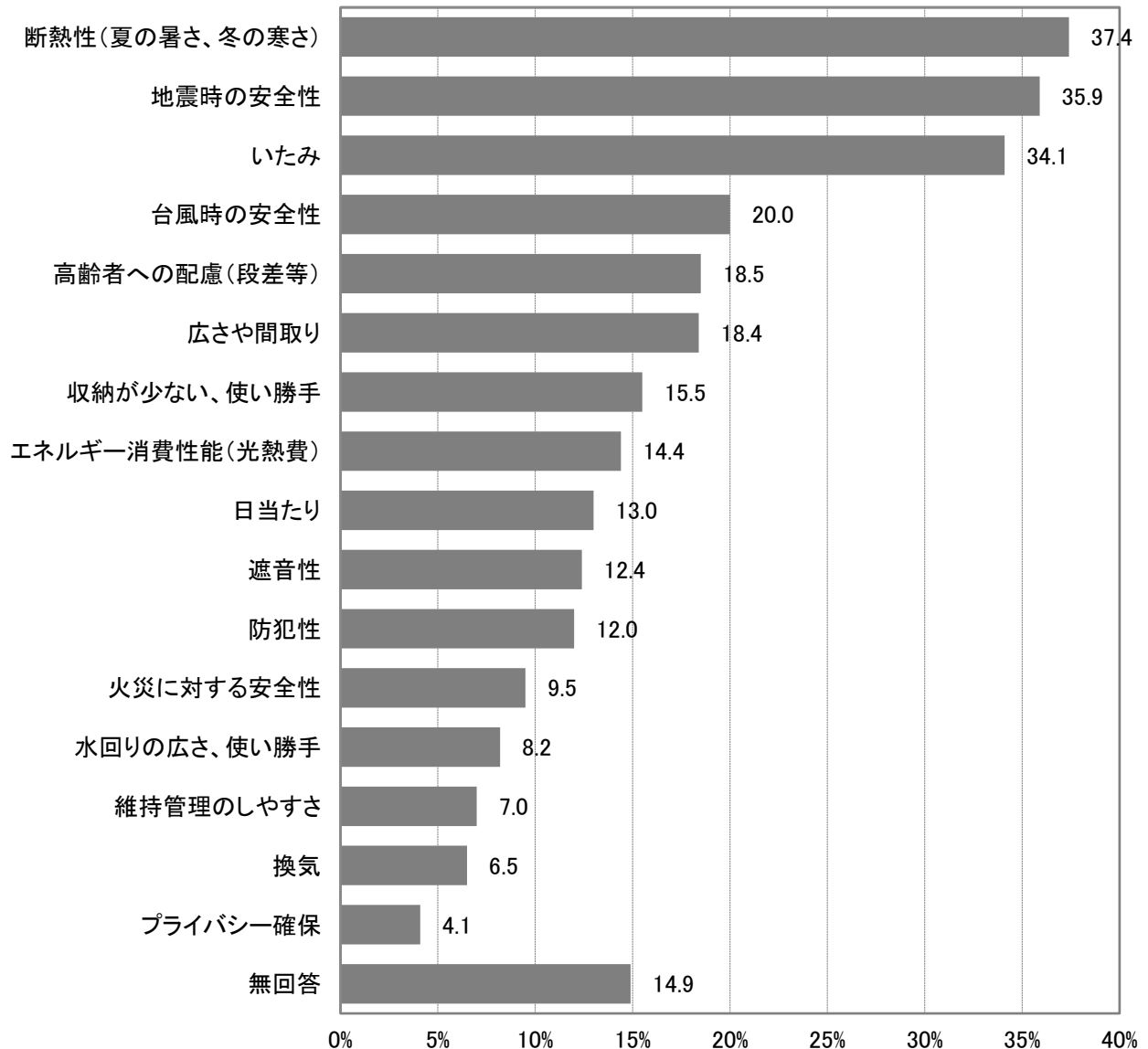
住宅の不満や不安な点は、「断熱性(夏の暑さ、冬の寒さ)」が37.4%、「地震時の安全性」が35.9%と高く、次いで「いたみ」が34.1%となっている。

年代別でみると、20歳代、30歳代では「広さや間取り」が約4割と高いことから、若い世代では広さに不満が多い傾向がみられた。60歳代以上では「いたみ」、「断熱性(夏の暑さ、冬の寒さ)」、「地震時の安全性」が約4割と高いことから、高齢者は築年数の古い住宅に居住しているということもあり、いたみや断熱性、耐震性などハード面での不満が多い傾向がみられた。

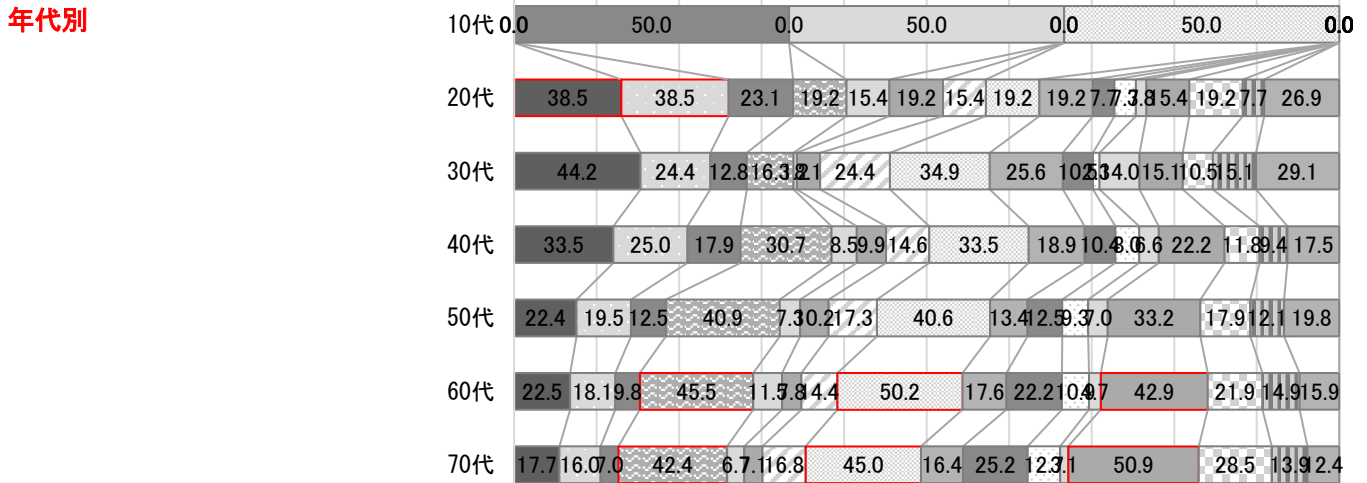
住宅種別でみると、分譲共同住宅を除く住宅では、「いたみ」や「断熱性」が高くなる傾向がみられるが、一方で分譲共同住宅では、「収納が少ない、使い勝手」が高く、可変性に対する不満が多い傾向がみられた。

建築時期別でみると、昭和55年以前の住宅においては「地震時の安全性」の不満・不安が最も高く、昭和56年以降では「断熱性」、「広さや間取り」、「収納が少ない、使い勝手」等が高くなることから、新耐震基準となった昭和56(1981)年の以前と以降の住宅で耐震性に関する不満・不安が占める割合が変化する傾向がみられた。

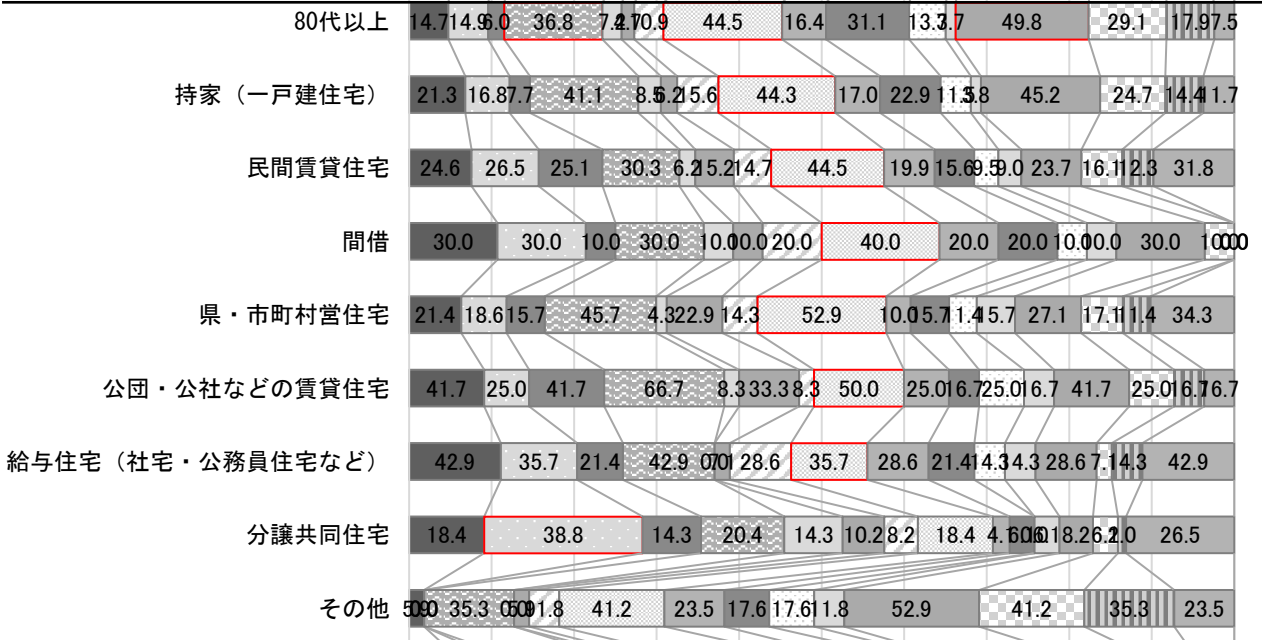
問9 住宅のどの点が不満又は不安か(複数に○) (N = 2,989)



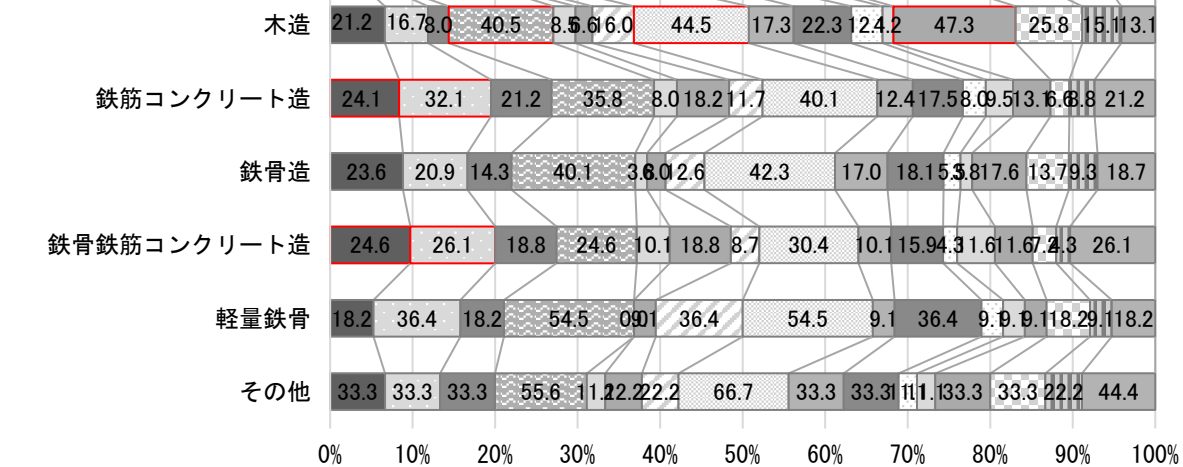
年代別



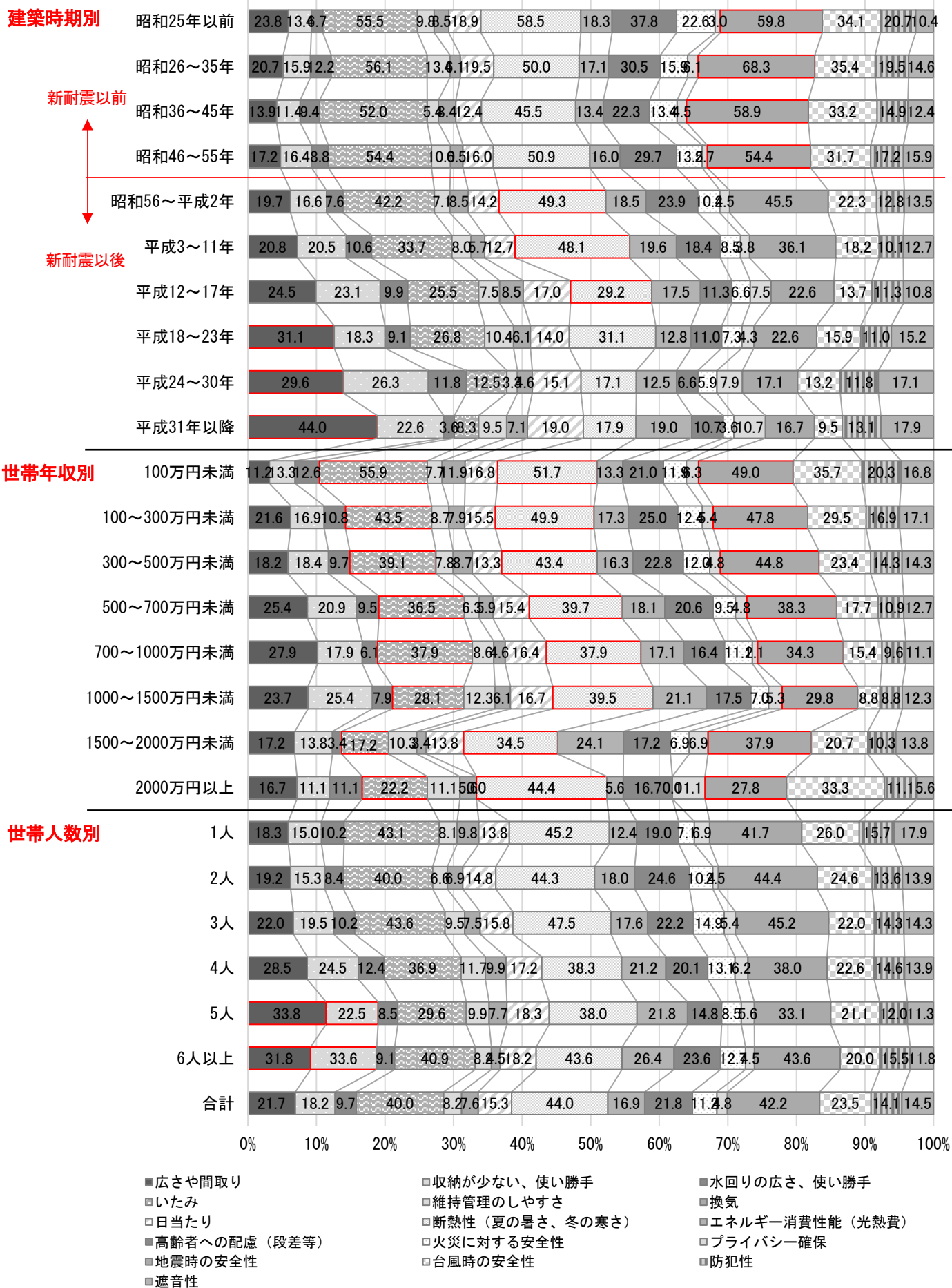
住宅種別



建築構造別



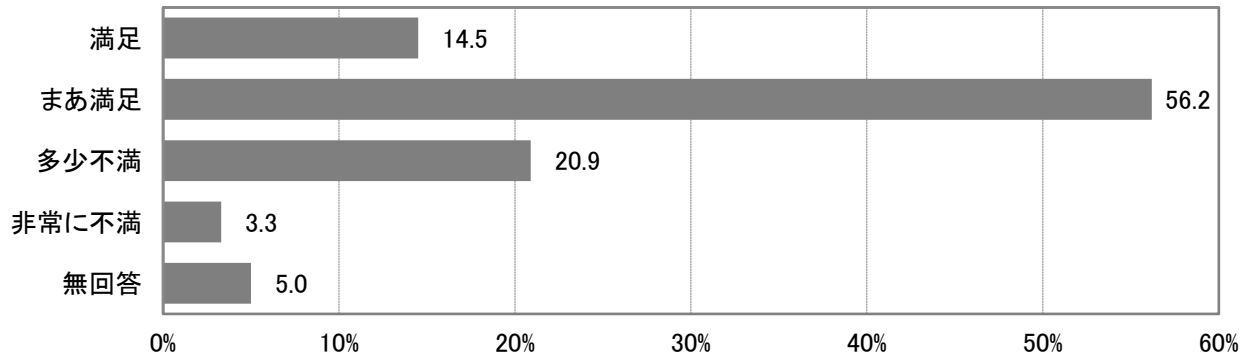
- 広さや間取り
- 収納が少ない、使い勝手
- 水回りの広さ、使い勝手
- いたみ
- 維持管理のしやすさ
- 換気
- 日当たり
- 断熱性 (夏の暑さ、冬の寒さ)
- エネルギー消費性能 (光熱費)
- 高齢者への配慮 (段差等)
- 火災に対する安全性
- プライバシー確保
- 地震時の安全性
- 台風時の安全性
- 防犯性
- 遮音性



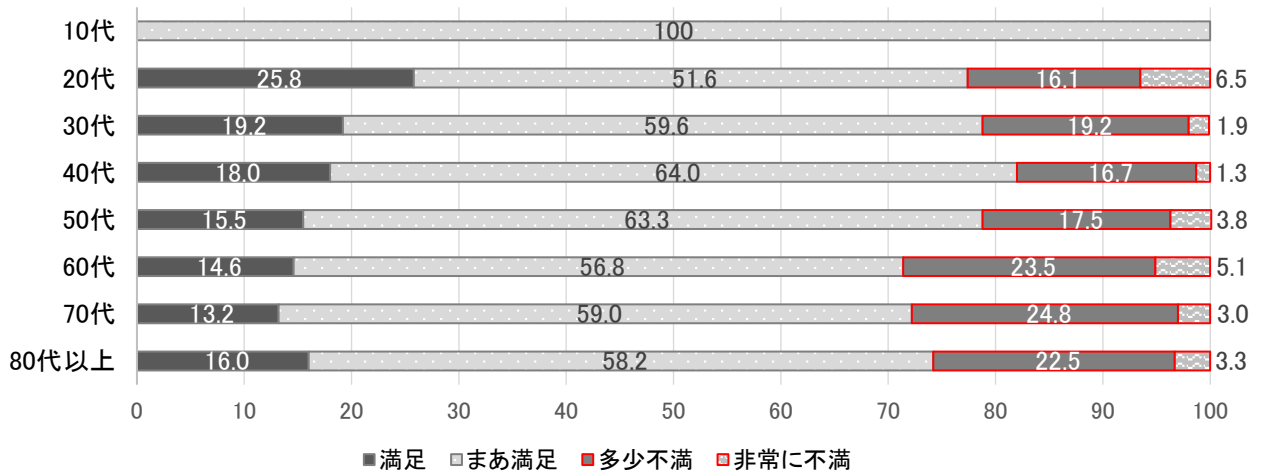
問10、住宅のまわりの住宅環境に対する満足度について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

住宅のまわりの住宅環境に対する満足度は、70.7%が「満足」又は「まあ満足」と回答している。
年代別でみると、年代が上がるほど多少不満、非常に不満の割合が高くなる傾向がみられた。

問10 住宅のまわりの住宅環境に対する満足度 (N = 2,989)



年代別



問11、住宅のまわりの住宅環境について、どの点が不満又は不安ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

住宅のまわりの住宅環境の不満や不安な点は、「日常の買物などの利便」が29.0%と最も高く、次いで、「災害時の避難」が21.6%、「水害・津波」が18.6%となっている。

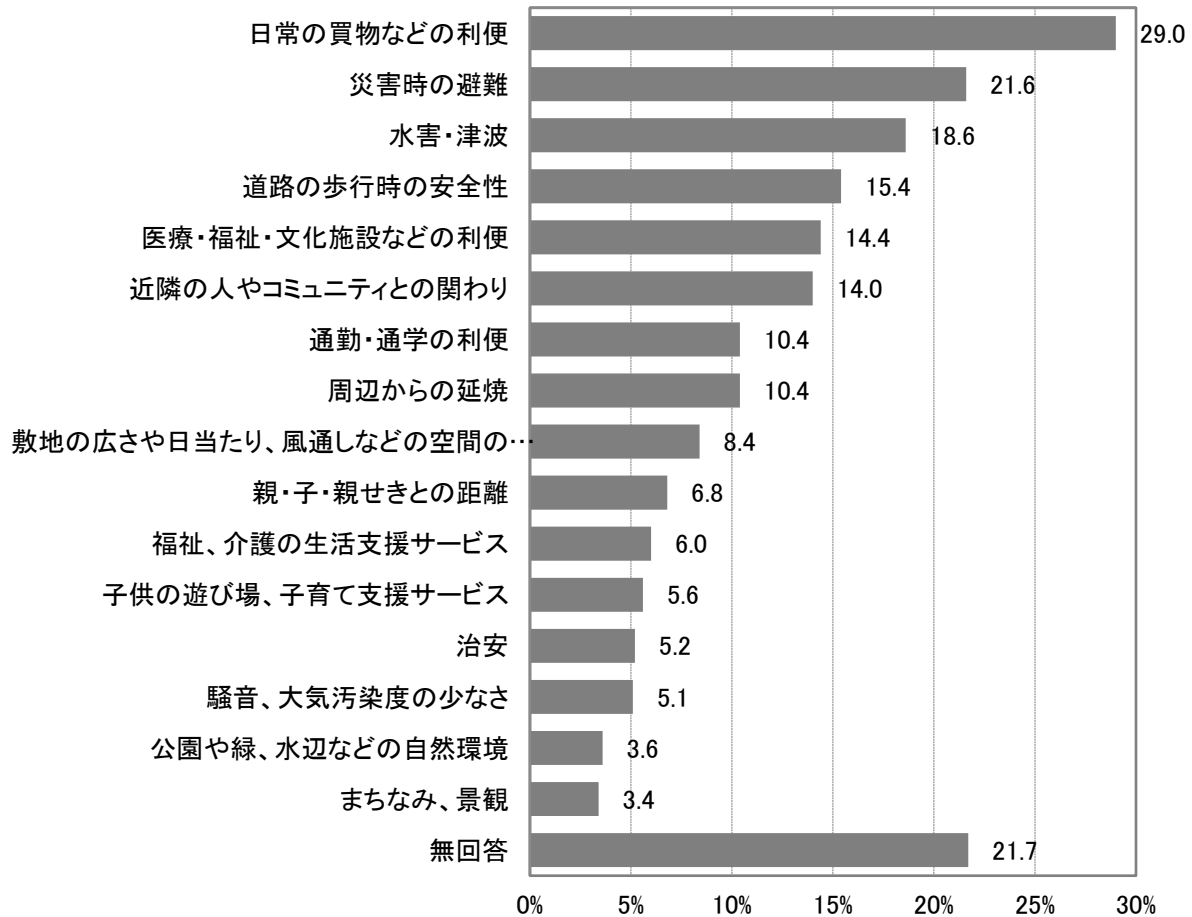
年代別でみると、20、60歳代以上では「日常の買物などの利便」が約4割と最も高くなる傾向がみられたが、20～40歳代の子育て世代では、通勤・通学、日常の買い物の利便性だけでなく「子供の遊び場、子育て支援サービス」や「親・子・親せきとの距離」が高くなる傾向がみられ、ライフステージに併せて住宅のまわりの住宅環境についての不満・不安が異なることが考えられる。

住宅種別でみると、持家では「日常の買物などの利便性」が39.1%と高い傾向がみられた。

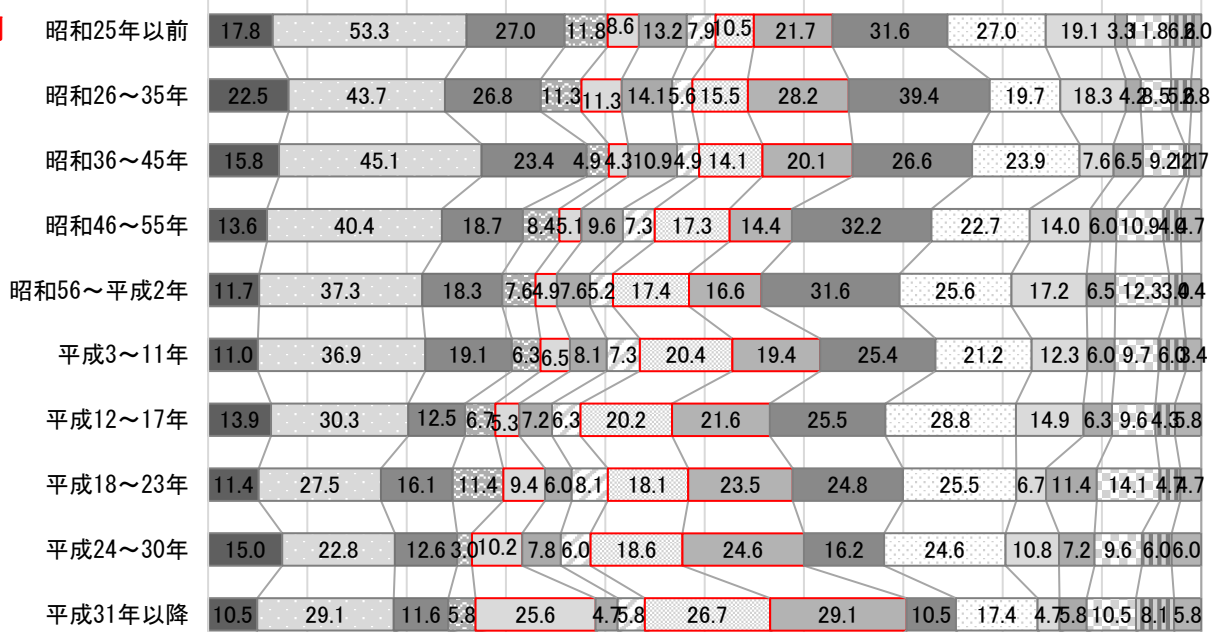
建築構造別でみると、木造では「日常の買物などの利便」に次いで、「災害時の避難」、「水害・津波」が高くなる傾向がみられた。

建築時期別でみると、築浅になるほど「子供の遊び場、子育て支援サービス」、「近隣の人やコミュニティとの関わり」、「道路の歩行時の安全性」が高くなり、築浅になるほど居住者も若いことから、子育て環境に関する不満・不安が高まる傾向がみられた。

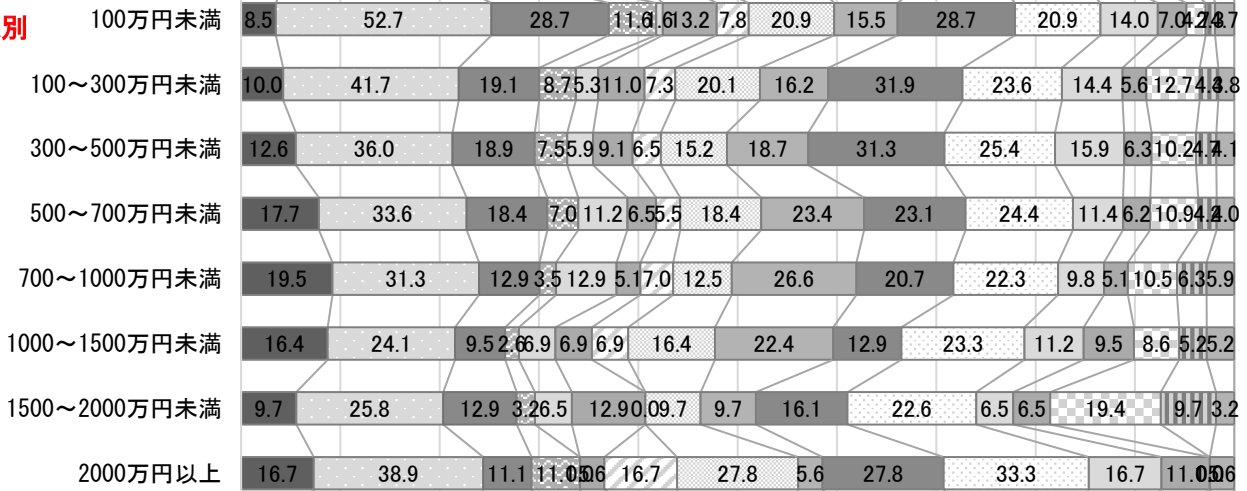
問11 住宅まわりの住宅環境のどの点が不満又は不安か(複数に○) (N = 2,989)



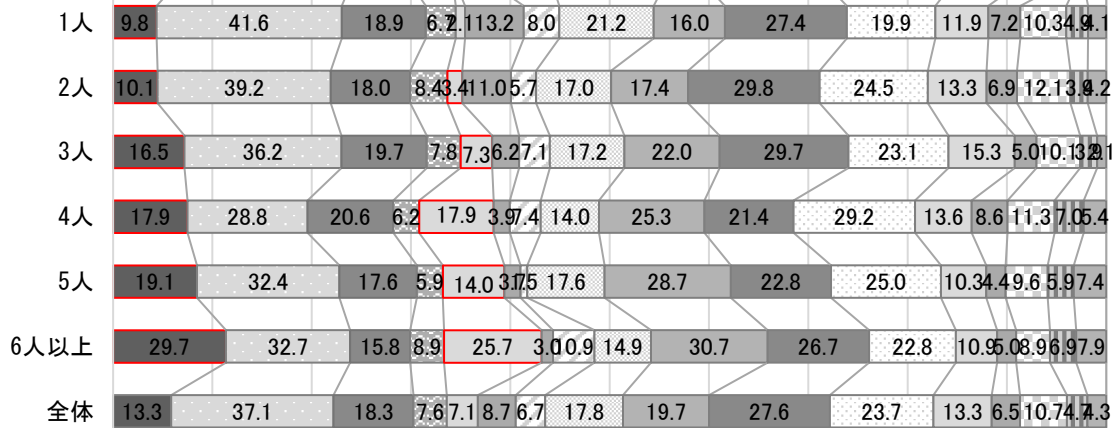
建築時期別



世帯収入別



世帯人数別



- 通勤・通学の利便
- 医療・福祉・文化施設などの利便
- 子供の遊び場、子育て支援サービス
- 治安
- 道路の歩行時の安全性
- 水害・津波
- 騒音、大気汚染度の少なさ
- 公園や緑、水辺などの自然環境
- 日常の買物などの利便
- 福祉、介護の生活支援サービス
- 親・子・親せきとの距離
- 近隣の人やコミュニティとの関わり
- 災害時の避難
- 周辺からの延焼
- 敷地の広さや日当たり、風通しなどの空間のゆとり
- まちなみ、景観